

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4572100529		
法人名	社会福祉法人豊寿会		
事業所名	グループホームきたがわ荘		
所在地	宮崎県延岡市北川町長井5 5 6 5 番地 8 (電 話) 0982-46-3107		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年7月18日	評価確定日	平成20年8月29日

【情報提供票より】（平成20年6月26日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成14年3月22日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤8人, 非常勤1人, 常勤換算7.6人	

（2）建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての ～1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	1,380 円	

（4）利用者の概要（平成20年6月26日現在）

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0	要介護2	2		
要介護3	6	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 84.4 歳	最低 73 歳	最高 97 歳		

（5）協力医療機関

協力医療機関名	ハーティークリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

併設の特別養護老人ホームやデイサービスセンターとの連携を図るとともに、利用者は定期的にこれらの施設利用者との交流を行っている。ホームのすぐ近くには道の駅があり、旬の食材を購入したり、散歩や買い物、地域との交流の場所となっている。また、学校や地域の行事、ホームの行事への参加呼びかけが相互に行われており、交流の機会が増えてきている。奥には地域住民の代替地の造成が進み工事関係者の出はいるがあり、利用者に対する気づかいもある。今後は更に近隣の住民との交流が期待できる。職員の資質向上のため外部研修への参加や夜間研修を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 運営推進会議のメンバーである行政の担当者が転勤のため交代になったが、次の担当者との引き継ぎの機会を設けスムーズ交代が行われた。支所及び本庁の担当者との連携ができています。以前異動した職員と施設の行事参加の機会に交流し、利用者への配慮がみられる。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価を実施する意義を理解し、職員一人ひとりが記入し、ミーティングで検討してすり合わせを行い、ホームとしての自己評価表を作成している。自分たちのケアを見直す機会、振り返りの機会ととらえている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議はホームからの状況説明にとどまらず、ホームからの協議案件に対し会議メンバーからも提案がなされ、入院となった利用者の退院を1か月半待つことに決定した。運営推進会議を通じて相談しやすい関係ができ、行政の担当者との連携が強まっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 毎月の行事案内や連絡事項のお便りに、責任者が直筆で利用者一人ひとりの日常の様子を書き、写真を同封して、利用明細書とともに郵送している。ホームへの来訪の機会をとらえて、家族と話をすることを心がけている。また、家族に声かけをして、大掃除の窓拭きや庭の草取りなど協力してもらっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 学校行事や学習発表会、地域の運動会に参加したり、小学校の児童からクリスマスリースや年賀状が届けられている。また、近くの保育所の子どもたちの来訪もあり、ホームの祭りには地域住民の参加もみられた。地域住民を職員に採用している。地域住民の代表として民生・児童委員経験者や老人クラブ連合会会長、自治公民館連絡協議会会長などが運営委員会のメンバーになり、地域との連携ができています。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の意思が反映でき、柔軟な対応ができるよう簡潔でわかりやすい理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時にも理念を確認・共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域在住の人を職員として採用している。地域及び学校行事に参加したりホームの行事に地域住民や子どもたちの参加もあり交流が活発になってきている。旬の地場産品を食材として地元業者に発注している。業者が生産者に発注する際、きたがわ荘の名前を出し地域にホームの存在を発信できている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス向上を目指して自己評価に全職員で取り組み、それぞれの評価票をミーティングで検討し、ホームとしての自己評価票を作成している。外部評価の結果は改善に向けた取り組みに反映させている。改善点のない項目についても更に高い目標を掲げて取り組む姿勢がうかがわれた。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催され、ホームからの状況説明にとどまらず、ホームからの懸案事項に対し参加者からの意見、提言をもらい、サービス向上に活用している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーであった行政の担当者が本庁へ異動となったが、相談できる関係は継続できている。本庁と支所の両方に連携ができ、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、行事案内と行事への参加依頼文書を作成するとともに、責任者が写真を同封し直筆の手紙で利用者の日常生活を報告し、利用明細書とともに郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に、家族と話をすることを心がけ、意見を出しやすい関係を作り、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	毎月3回行っている特別養護老人ホームでの生け花や音楽レクリエーションの場でホームから異動した職員と交流する機会を設けている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月2回夜間研修を行なっている。外部研修には交代で参加し、報告書により研修内容を職員全員で共有し資質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北支部ブロック研修会に参加し同業者とのネットワークができています。また、新設のグループホームの内覧会に行き参考にして、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービス利用者が見学に来たり、利用者の住んでいた地区のデイサービス利用者との交流の機会を設けている。利用予定者本人や家族の見学を随時受け付けている。入居後に以前住んでいた地区を訪ねるなどなじんでサービスの利用ができるような働きかけを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という意識ではなく、共にそばで支え合う関係を築いている。共に笑い楽しむことが多く、利用者からやさしさをもらいながら、やさしさを返すことができる関係にある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でしっかり声かけを行ない、一人ひとりの思いや希望を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、主治医等と話し合い、職員全員で検討し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、担当者から日々の状況変化や気づきの報告により、カンファレンスを行ない適宜介護計画の見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の企画会議で情報提供をしてもらい、特別養護老人ホームやデイサービスの車を受診介助や外出の機会に活用している。また、お花や音楽レクリエーションにも定期的に参加し交流している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の掛かりつけ医や事業所の協力医による適切な医療を受けられる体制ができている。家族が受診介助できない場合は職員が代行するなど連携がとれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者本人、家族、掛かりつけ医等と早い段階から話し合いを持ち、全員で方針を共有している。夜間の対応は特別養護老人ホームと連携ができている。終末期ケアの研修も予定され、職員全員が変化に対応できる体制作りを目指している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報や記録の管理を行い、声かけや対応には常にプライバシーに配慮していることがうかがわれる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや意向を大切にして、柔軟な対応をすることで希望に沿った支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム独自の献立になったことで、利用者の希望する献立に変更できるなど柔軟な対応がみられる。地元から旬の食材を毎日購入したり、家族や地域の方からいただいた食材で季節感を味わうことができている。利用者もできる範囲で準備や片づけを行ない、職員と一緒に食事を楽しんでいる様子が見える。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望や入浴時間に合わせた支援を行っている。入浴拒否の利用者には時間をおいて他の職員が声かけをして入浴できるよう支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力に応じた役割を担うことで日々の生活に張りを持たせ、趣味や特技を生かせるような支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人内や地域の行事参加、買い物の同行、道の駅への散歩など戸外にでかけられるよう支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけず、自由に出はいることができるようになっている。夜間は玄関の施錠をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回法人内で合同の訓練を行ない、ケア会議で対応について話し合っている。マニュアルを作成し、毎月消火器の点検を行っている。また、夏まつりに地元消防団に来てもらいホームを見学してもらうなど連携に努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士に相談できる体制になっている。食事中も食事摂取の声かけやゆっくり食事を楽しむ配慮がされ、栄養摂取や水分の確保の支援が行なわれている。	○	食事摂取量等文章でケア記録に記録されているが、今後は確認のためにチェック表の活用が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとしたスペースに利用者の作品やお花が飾られ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。昼の部屋では利用者が洗濯物たたみを日課にしている様子をうかがうことができた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた家具が配置され写真や飾り物、ぬいぐるみなどが置かれ、個性ある居室で居心地のよさが感じられる。		

※  は、重点項目。